

cloud-all クラウド 連載 6th

大塚商会のサブスクリプションビジネスサポート

クラウドで、課金ビジネスを始めよう!

クラウドサービス管理プラットフォーム「クラウド」の課金管理機能は、パブリッククラウドのサーバーを利用し、使った分だけ料金を支払うIaaS/PaaSにおいてより大きな意味を持つ。今回は、その代表的商材であるMicrosoft Azureの特長と課金の仕組みを改めて整理してみたい。

“使った分だけ支払う” 課金形態にスムーズに対応

大塚商会BP事業部が提供する、クラウドサービス管理プラットフォーム「クラウド」の運用がいよいよ本格的にスタートした。ITビジネスでは、サブスクリプションモデルへの移行は急務の課題だ。だがその一方で、サービスの仕組みの複雑さや課金管理の手間など、クラウド商材に対する不安の声

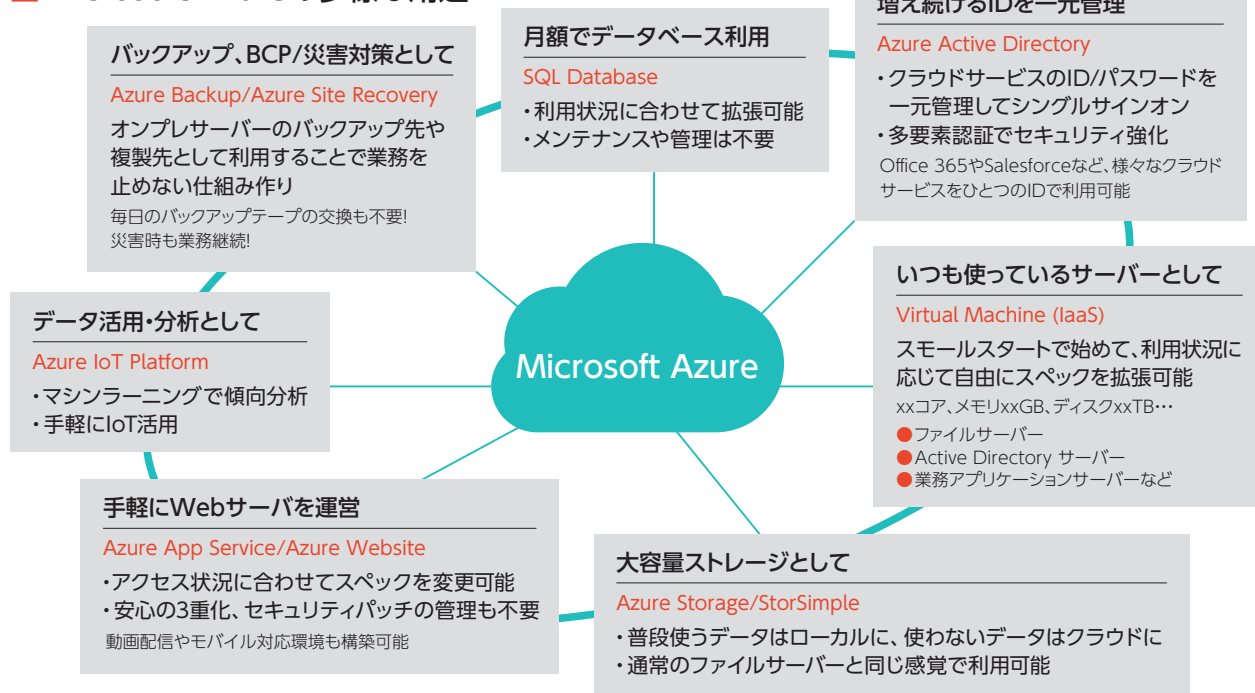
も多い。クラウド商材のライセンスや課金状況の一元的な管理を実現する「クラウド」は、ビジネスのサブスクリプション化の基盤として大きな注目を集めている。

昨年、ローンチしたこのプラットフォームの第一の特長は、煩雑になりがちなクラウド商材の管理がスムーズに行える点にある。さらに与信額や利用予定額に応じてアラートを出すなど、クラウド商材の特色に対応した機能を

備えることも大きなポイントだ。

こうした特長で最も効果を発揮するのが、クラウドのサーバーを必要に応じて使うIaaS/PaaSであることは間違い無い。IaaS/PaaSは、サービスの種類や提供事業者によって課金の仕組みが異なり、分かりづらいという声もよく耳にする。そこで今回は、マイクロソフト社のIaaS/PaaSサービスであるMicrosoft Azureに基づきその特長と課金の仕組みを改めて整理していきたい。

■ Microsoft Azureの多様な用途



■ 課金の基本となる4項目

コンピューティングサービス	サーバー稼働時間	・どのスペックのサーバーを、何台の構成で、1カ月に何分稼働させるかによって料金が決まる ・Azure の仮想マシン、クラウドサービス、Webサイト、モバイルサービスなどで適用される
データサービス	ストレージのデータ容量	・データが月平均で何GB 格納されていたか、によって料金が決まる ・Azure の SQL データベースや Azure ストレージなどで適用される ・BLOB やテーブルの GRS などのオン/オフで、料金が異なる
ネットワークサービス	VPN ゲートウェイ / ExpressRoute の使用料	・仮想ネットワーク VPN ゲートウェイの使用時間 (時間単位) に対して料金が決まる ・ExpressRoute は月額料金
	下りのデータ転送量	・データセンター外部からのリクエストに対する、下りのデータ転送量によって料金が決まる ※Microsoft Azure へのデータの受信は無料

ファイルサーバーからBCPまで 即座にサーバーが利用できる

エンドユーザー様にとって、Microsoft Azureをはじめとするパブリッククラウドの第一のメリットは、サーバー調達が不要となり、必要に応じたサーバー機能を即座に利用できる点にある。Microsoft Azureでは、5分程度でクラウドに新サーバーを構築し利用を開始することも可能だ。

その用途はオンプレミスサーバー同様、ファイルサーバーやActive Directoryサーバー、業務アプリケーションサーバー、Webサーバーなどとしての利用のほか、オンプレミスサーバーの複製・同期 (レプリケーション) やデータバックアップによるBCP/災害対策に活用できる。エンドユーザー様の中には、大切なデータを海外データセンターに置くことを危惧する向きもあるが、Microsoft Azureの場合、東日

本、西日本にデータセンターを持ち、国内拠点だけで冗長構成が可能になる点も注目ポイントになるだろう。

次に課金の仕組みを見ていこう。Microsoft Azureの場合、利用料金の計算は以下の4項目に基づいて行われる。一つ目は「サーバー稼働時間」で、どのようなスペックのサーバーを何台構成で何時間稼働させたかによって料金は変動する。マシンは、スペックが異なる複数の種類から選ぶことになる。

二つ目が「ストレージのデータ容量」。利用料金は収納データ容量に基づき従量課金されるが、冗長構成の種類によってもGB当たりの単価は違ってくる。三つ目が「VPNゲートウェイ/ExpressRouteの使用量」。Microsoft Azureの場合、仮想ネットワーク作成は無料で、オンプレミス環境と接続する場合にVPNゲートウェイの利用料金が時間課金される。最後が「下りのデータ転送量」。データ転送料金の考え方はサービス提供事業

者によってさまざまだが、Microsoft Azureの場合、入力時は無料で出力時に従量課金される。

では、一般的な用途でMicrosoft Azureを利用する場合、毎月のコストはどの程度発生するのだろうか。それを簡単にシミュレーションしたのが下表になる。既存オンプレミスサーバーの持ち出しを検討する場合の目安として参考にいただきたい。より精度の高い見積を出したい場合は、マイクロソフト社が提供するMicrosoft Azure 料金計算ツール (<https://azure.microsoft.com/ja-jp/pricing/calculator/>) が便利だ。

また「くらうどー」では、今年5月に新たに資料ダウンロードサイトを開設し、今回紹介したMicrosoft Azureをはじめとするクラウド商材の提案資料や各種マニュアルの提供を開始している。クラウドへとシフトするパートナー様への情報提供のプラットフォームとしても今後大きな意味を持つに違いない。【BP】

■ Microsoft Azure利用料金のシミュレーション

仮想マシン (コア数・メモリ)	+	ストレージ容量	+	データ通信量	+	その他(VPN)	=	月額費用
小規模サーバ相当 (1コア/ メモリ1.75GB / システム: 127G + データ: 500GB)								
¥8,666 (1コア/1.75GB)	+	¥3,360 (127GB+500GB)	+	¥1,277 (通信量100GB)	+	¥2,943 (VPN)	=	¥16,246
通常ファイルサーバ相当 (2コア/ メモリ3.5GB / システム: 127G + データ: 2TB)								
¥17,333 (2コア/ 3.5GB)	+	¥13,763 (127GB+2TB)	+	¥3,965 (通信量300GB)	+	¥2,943 (VPN)	=	¥38,004
高スペックサーバ相当 (8コア/ メモリ14GB / システム: 127GB + データ: 5TB)								
¥69,332 (8コア/ 14GB)	+	¥34,406 (127GB+5TB)	+	¥6,653 (通信量500GB)	+	¥2,943 (VPN)	=	¥113,334

クラウド資料ダウンロードサイトへのアクセス方法

本格始動した「クラウド」に今年5月、新たに資料ダウンロードサイトが開設された。マニュアルや規約、価格表、各種申請書などがダウンロードできる同サイトで特に注目したいのが即座にセールスに活用できる提案資料のコーナー。A4チラシや提案用に分かりやすくまとめられた詳細資料、導入事例などの充実した資料は注目に値する。クラウド商材セールスのヒントとしてぜひ活用したいところだ。ストア開設済みのパートナー様にはご案内が届いているはずだが、誌上でも資料ダウンロードサイトへのアクセス方法を紹介したい。

① ログイン後 画面右上の?を開く

② 各種資料はどこに掲載されていますか? を展開し、URLをクリックするとサイトにアクセスできる

1 SP企業向け

1.1 クラウドについて

各経路はどこに掲載されていますか?

下記URLよりストアのご利用ガイド、各種資料、申請書等がダウンロードできます。クラウド事務局からのご案内も併せてお送りしておりますので※上記情報内容につきご不明点等ございましたら営業担当までお問い合わせください。
<https://www.cloud-sell.jp/documents/>
 ※右クリックなどで、新しいウィンドウでひらくと快適に閲覧いただけます。

クラウド 資料ダウンロードサイト

各種資料

ダウンロード

印刷

共有

ダウンロード資料の例

提案用チラシ

詳細資料

導入事例

Microsoft Azureとは・・・?

マイクロソフトが提供する『パブリッククラウドサービスのプラットフォーム』です。今まで社内に置いていたサーバーをクラウド上で利用します。クラウド(雲)の上と言っても、実際はマイクロソフトの巨大なデータセンター上で動いています。

社内

社内にサーバー不要!

大塚の民衆

他拠点への災害対策の準備も不要!

Microsoft Azure

サーバーの運用は今まで以上に自由な運用!

乃村工芸社

Office 365 のことを活用

- Office 365 と SharePoint を組み合わせ「XOB ルーム」を構築することで、プロジェクトの情報共有や資料の蓄積が容易になった。
- コミュニケーション基盤をクラウド化することで、場所を問わずいなり取りが可能になった。
- 将来はXOBルームに蓄積した膨大な情報を整理し、より商品買入提案のためのデータベースとして活用することも視野に入っている。



動画コンテンツ cloud-all Video content

●Microsoft Azure 商材編 ①

Microsoft Azure

マイクロソフト社が提供するパブリッククラウド「Microsoft Azure」の概要に加え、4つの活用パターン、さらにターゲットについてご紹介します。



●Microsoft Azure 商材編 ②

Microsoft Azureの料金計算見積もり

Microsoft Azureの料金計算見積もりを行うにあたって必要となる、最新価格の調べ方や見積もりで用いるサイトの使い方などを解説します。



●Microsoft Azure 商材編 ③

Microsoft Azureの仮想マシン作成

Microsoft Azureでは、OSなども自由に選べる仮想マシンをクラウド上に構築することができます。ここでは実際に仮想マシンを作成するための手順をご紹介します。



●トレンド市況編 ①

クラウド利用の重要性

2019年には1兆2,000億円まで拡大する、といわれるクラウド市場の動向とこれからのITビジネスにおける重要性や利用メリットについてご紹介します。



●トレンド市況編 ③

クラウドコンピューティングとは

そもそも「クラウド」とは何なのか。その定義や歴史的な流れ、特徴やサービスモデルをご紹介します。そのうえで、マイクロソフト社の提供するサービスや用語について解説します。



●Office 365 商材編 ②

Office 買うなら365

これまでのOfficeと、最新のOffice 365との違いや優位性についてご紹介します。大幅な進化を遂げたOffice 365、買うならコレ！



●Office 365 商材編 ④

Exchange Online

マイクロソフト社のサーバー上で運用ができるメールサーバー「Exchange Online」の概要と訴求ポイント、また利用メリットについて解説します。



●Office 365 商材編 ⑥

Skype for Business Online

チャットやテレビ会議ができる「Skype」の法人版「Skype for Business Online」で実現可能なサービスや訴求ポイント、メリットについて解説します。



●トレンド市況編 ②

働き方改革とセキュリティ

Office 365を使うことで実現できる「働き方改革」を進める際に重要となるセキュリティの確保と生産性向上について解説します。



●Office 365 商材編 ①

Office 365とは

マイクロソフト社が提供する最新のOfficeと、最新のグループウェアをセットで提供するクラウド型グループウェアサービス「Office 365」をご紹介します。



●Office 365 商材編 ③

OneDrive for Business

個人用のクラウドストレージ「One Drive」のサービス内容と、1TBという大容量を活かした活用シナリオについてご紹介します。



●Office 365 商材編 ⑤

SharePoint Online

マイクロソフト社のサーバー上で運用可能なストレージ領域である「SharePoint Online」の内容、提案にあたってのポイント、ターゲットについてご紹介します。



●Office 365 商材編 ⑦

Microsoft Teams

Office 365の新機能として追加された、チャットベースの作業ワークスペース「Microsoft Teams」について、その内容やメリット、利用シーンをご紹介します。



●クラウドーる編 ①

CSPのご紹介

マイクロソフト社の新しいビジネスプログラム「CSP」は、Office 365、Azureなどのクラウドサービスを再販できるパートナー向けビジネスプログラムです。



●クラウドーる編 ③

クラウドーるコマースプラットフォームストア概要

パートナー様のクラウドサービス販売を支援する統合ECプラットフォーム「クラウドーるコマースプラットフォーム」の概要と、具体的な機能を解説します。



●クラウドーる編 ②

クラウドーるのご紹介

大塚商会では、クラウドや月額課金のサービス展開をご検討のパートナー様を支援する「クラウドーる」というサービスをご用意しております。



●クラウドーる編 ④

Office 365のプラン選定について

Office 365の導入にあたってポイントとなるのが、複数のサービスを組み合わせるプラン選びです。プランごとの内容の違いや値段についてご紹介します。

